



↑当日のオーケストラの様子。曲の最後の終わり方がかっこよかったです。

七月九日こども定期演奏会の終演後に指揮者の川瀬さん、チェリストの上野さんにお話を聞きました。オーケストラにはたくさんのお楽器がありますが、どうやって一つの音楽にまとめているのか、どんなふうに練習しているのか、川瀬さんに質問しました。

キッズ音楽新聞

オーケストラ

発行者
藤岡会梨

どんなふうに

練習している?

練習のときは、楽譜に書いてあること、例えば、音の強弱やおそい、早いといったことは注意しないようにして、ハーモニをやらなく、透明な音色でなど抽象的なことを伝えるようにしているそうです。川瀬さんはオーケストラは100人もいるからずれるのは当たり前だし、ずれないとおもしろくないと言っていました。私は、ずれてはいけないと思っていましたのでとてもおどろきました!



川瀬さんの指揮棒

指揮棒の役割はうでを拡張させることです。本番中に折れたり、飛んでいたりするので予備を持っているそうです。実際に川瀬さんの指揮棒を見せてもらいました。長さは、29cmくらいで材料は木かカーボンです。持ち手はゴルフでできているそうです。カーボンの指揮棒をさわらせてもらいましたが、なんと消しゴム一こぐらの重さでした。川瀬さんの家には50本ほどの指揮棒があるそうです。指揮棒が軽くてとてもびっくりしました。



←川瀬さんの貴重な指揮棒



→取材終了後記念撮影



上野さんへの質問

Q. どうしたら上手に弾けますか?
A. 練習が大事です。基礎練習は毎日やるし、難しいパッセージはゆっくり練習します。自分で弾いていてるところを録音して聞いてみるときにイメージしていた演奏とぜんぜんちがうことにショックを受けます。なるべく聞き手を想像しながら練習するのが大切です。



↑ヴィンヤード形式のホール。シャンデリアとホールの壁は訪れた際にぜひ確認してみてください!



おまけ「ビブ」

取材の中でサントリイホールのみみつを聞いたので紹介をします。サントリイホールは日本初のヴィンヤード(ぶどう畑)形式でぶどう畑のように席がだんだんに配置されています。ホールの天井にあるシャンデリアはシヤンパンの泡をイメージしているそうです。ホールの壁はなんとウイスキーのたると同じ素材で作られています。